学校番号	3005

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 日本史Ａ　人・くらし・未来」　（第一学習社出版）						
副教材等	プロムナード日本史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業ではプリントを配布し板書と説明をプリントに記入しながら学習していきます。
その際、効率的に学習できるようメモすることも必要です。
歴史的事象に「なぜ」の視点を持ちましょう。

2　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培う。
また、国際社会の一員として主体的に生きようとする姿勢を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会の一員として主体的に生きようとする姿勢を有する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見出し、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	プリント ノート	プリント ノート 定期考査	プリント ノート 定期考査	プリント ノート 定期考査

上に示す観点に基づいて学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じてそれぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第1章・近代国家の形成と国際関係の推移	・せまってくる外国船 ・ちからを蓄える庶民 ・近代思想のいぶき ・揺らぐ幕藩体制	○ ○	 ○ ○ 	 ○ 	○ ○ ○	a:江戸時代の日本の対外関係について、関心と課題意識を高め、意欲的に追及しようとしている。 b:江戸時代後期の政治・文化・経済について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:設定された主題について、基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査
	2節・開国と幕末の動乱	・黒船がやってきた ・志士たちの時代 ・手を結ぶ薩長 ・近代との出会い ・江戸幕府が終わり新政府へ	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		 ○ 	a:開国に至った経緯と幕府の対応、開国以降の情勢について関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。 b:開国と幕末の動乱について特質を見出し、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:開国と幕末の動乱について理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査

	3節・近代国家の形成	・江戸が東京になった ・天皇の軍隊がつくられた ・スローガンは「富国強兵」 ・欧米文化がはいってきた ・日本の国境が定まった ・爆発する農民や士族の不満 ・国会開設が決まった ・地主制が進行した ・立憲政治がはじまった ・国会がはじめて開かれた	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:明治政府の初期の諸政策によって近代日本の基礎が形成されこと、国会開設に至った一連の動きに関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。 b:明治政府による初期の目的、前時代との違いや問題点、日本の初期外交政策において違いや問題点を多面的・多角的に考察し理解している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:明治政府の初期の諸政策について、目的と問題点を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査
	4節・国際関係の推移と近代産業の発展	・欧米と肩を並べる国をめざして ・清国との対立が深まった ・藩閥と政党が接近した ・ロシアとの戦争がおこった ・アジアへの勢力拡大がはじまる ・国民の生活が圧迫された ・綿糸と生糸が支えた産業革命 ・欧米の資本主義に仲間入りした ・貧富の差が広がった ・国家主義が台頭する ・教育が進展した ・明治の文化が花開いた	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	a:明治前半では条約改正が外交課題であったこと、日清・日露戦争、資本主義の発展、産業の発展と問題点、教育や学校について関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。 b:条約改正、日清・日露戦争、政党政治の発展、産業の発展と問題点、教育政策などについて当時の国際情勢をふまえて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:国際関係の推移と近代産業の発展について、基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査

後期	第2章・両大戦をめぐる国際情勢	・民衆が政治を動かしはじめた	○	○			a:政党政治の展開、朝鮮・中国の民族運動と日本の関連性、大正・昭和の経済・文化・くらし・学問・芸術、大正デモクラシーについて関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。 b:第一次・第二次護憲運動などの影響力、当時の国際情勢、社会、文化・くらしについて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:政党政治と民衆運動の展開、第一次世界大戦が日本に与えた影響、さまざまな社会運動について基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査
		・最初の世界大戦に日本も参戦した			○	○		
		・成金の時代がやってきた		○		○		
		・朝鮮・中国の民衆が立ち上がった	○	○				
		・日本は欧米に歩調をあわせた		○		○		
		・「平民宰相」が登場した	○	○				
		・抑圧からの解放をもとめて		○				
		・新しい文化とモダンな都市が生まれた	○	○	○			
		・学問と芸術に新風が吹く			○	○		
	2節・第二次世界大戦と日本	・恐慌の嵐が吹きあれる	○			○	a:国際的な世界恐慌による経済危機について把握し、日本や各国がどのように克服していったのか、日本の戦争への動き、国民生活への影響、諸外国との関係の変化などについて理解しようとしている。 b:日本の戦争に至る経緯、政治の変化、経済の動向、国際関係の変化、戦時下の国民統制について目的と実態を理解し、さらに国民意識の変化の面からも考察している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:第二次世界大戦と日本について基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査
		・日本の外交が行きづまる		○		○		
		・軍部の暴走がはじまった		○		○		
		・中国との長い戦いがはじまった		○				
		・戦争の影が文化におよぶ	○	○	○			
		・すべてが戦争に協力させられた		○				
		・アメリカとの戦争がはじまった	○	○	○			
		・戦争が拡大する	○	○				
		・アジア・太平洋の諸民族にかかわった		○	○			
		・生活も戦争に染まった	○	○	○			
		・戦争が終わった				○		

	第3章　現代の日本と世界	・占領軍がやってきた ・日本が生まれ変わる ・新しい国のしくみ ・飢えとのたたかい ・飢えのなかでも解放感があった ・民主化から経済復興へ ・復興への転機到来 ・複雑な環境のなかでの独立	○ ○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○ 	a:敗戦によって日本が連合国の占領を受けたこと、日本国憲法、戦後の国民生活、日本の主権回復などについて関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。 b:日本の占領政策の個々の内容、連合軍側の意図、戦後の国民政策の実態について、政治・経済政策と関連づけて考察している。平和条約締結に至る国内外の動きと合わせて考察している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:第二次世界大戦後の日本について、諸政策、日本国憲法、日本の主権回復など基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査
	2節・独立後の政治と経済の発展	・平和への願いが叫ばれた ・保守と革新の正面衝突 ・奇跡の経済成長がはじまった ・奇跡の経済成長の影 ・あらたな戦争にまきこまれた ・豊かさと中流意識	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○	 ○ 	a:主権回復後の日本の動き、政治の動き、高度経済成長期の社会・人々の生活について関心を持ち、 意欲的に追及しようとしている。 b:主権回復後、日本が締結した条約や制定した法律について理解している。また、それに関連しておこった国内の動き、問題点を考察している。高度経済成長の内容、諸問題についても理解を深めている。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:主権回復後の国内の動きや内容、政治的背景、高度経済成長など基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査

	3節・現代の日本と世界	・２つのショック ・経済大国が誕生した ・消費はファッションになった ・バブルはこうしてふくらんだ ・大きな歴史の転換をむかえた ・政局と経済が混迷する ・これからの日本について考えよう ・時代の転換点に立って	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○ ○ 	a:石油危機後の社会情勢について、現代の生活環境との関連性を見出している。国際社会において、日本の果たすべき役割について関心を深めている。 b:国際社会における日本の役割や課題や現代社会が抱える社会問題について、戦後から現在までの国民生活の変化のなかに、その起因となる部分をみつけている。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 d:石油危機後の国内外の情勢や現在の日本が抱える問題など基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。	ノート プリント 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。